

第4章 景観重要建造物の指定の方針

(1) 景観重要建造物指定の基本的な考え方

古都大津を代表する各地域の歴史的・文化的な蓄積を今に伝え、地域における景観形成の拠り所となる景観資源として、市民の共通認識が得られる歴史的建造物、近代的建造物、及び工作物（門、塀など）を対象として、景観重要建造物の指定を行う。

(2) 地域別の指定方針

各地域においては、地域の景観を特徴づける下記の建造物を中心として、実施計画の策定などを通して地域住民などの共通認識のもとに景観重要建造物に指定することが望ましい対象を抽出し、その指定に努める。

① 山地景観地域

ア. 葛川・伊香立地区

- 葛川の集落の主要な景観要素となる建造物
- 集落の建築様式を今に伝える農家住宅

イ. 大石・田上地区

- 谷あいの集落の主要な景観要素となる建造物
- 集落の建築様式を今に伝える農家住宅

② 古都緑地景観地域

ア. 比叡山・音羽地区

- 延暦寺、園城寺の重要な歴史的建造物
- 崇福寺跡などの歴史文化資産

イ. 伽藍山地区

- 石山寺の重要な歴史的建造物

③ 丘陵地景観地域

ア. 比良山麓丘陵地区

- 百間堤などの歴史的な土木構造物

イ. 堅田・和邇丘陵地区

- 集落の主要な景観要素となる建造物
- 集落の建築様式を今に伝える農家住宅

ウ. 南郷・瀬田丘陵地区

- びわこ文化公園都市などに見られる文教施設などの新たな地域のシンボルとなる建造物

④ 田園集落景観地域

ア. 北部湖岸田園地区

- 小松、木戸、和邇などの集落の主要な景観要素となる建造物
- 小野の歴史的まちなみを構成する主要な景観要素となる建造物
- 集落の建築様式を今に伝える農家住宅

イ. 比良山麓田園地区

- 栗原や八屋戸などの集落の主要な景観要素となる建造物
- 集落の建築様式を今に伝える農家住宅

ウ. 仰木・伊香立田園地区

- 伊香立や仰木などの集落の主要な景観要素となる建造物
- 集落の建築様式を今に伝える農家住宅

エ. 田上田園地区

- 田上や上田上などの集落の主要な景観要素となる建造物
- 集落の建築様式を今に伝える農家住宅

⑤ 古都景観地域

ア. 堅田地区

- 漁業・水運の拠点として湖と深く関わってきた堅田の歴史的まちなみを構成する主要な景観要素となる建造物
- 歴史的建築様式を今に伝える町家

イ. 坂本・大津京地区

- 比叡山の里坊として発展してきた坂本や旧坂本城下町（下阪本）の歴史的まちなみを構成する主要な景観要素となる建造物
- 歴史的建築様式を今に伝える町家
- 穴太衆積みの石垣

ウ. 石山寺周辺・近江国庁跡地区

- 石山寺門前の歴史的まちなみを構成する主要な景観要素となる建造物
- 歴史的建築様式を今に伝える町家

⑥ 都心景観地域

ア. 大津・膳所都心地区

- 江戸期の港町として栄えた大津の歴史的まちなみを構成する主要な景観要素となる建造物
- 明治以降に建設された大津の顔を形成する近代的な建造物
- 歴史的建築様式を今に伝える町家

イ. 石山副都心地区

- 旧東海道沿道の歴史的まちなみを構成する主要な景観要素となる建造物
- 歴史的建築様式を今に伝える町家

⑦ 市街地景観地域

ア. 小松地区

- 小松の歴史的まちなみを構成する主要な景観要素となる建造物

イ. 木戸地区

- 木戸の歴史的まちなみを構成する主要な景観要素となる建造物

ウ. 和邇地区

- 和邇の歴史的まちなみを構成する主要な景観要素となる建造物

エ. 堅田・雄琴地区

- 堅田の歴史的まちなみを構成する主要な景観要素となる建造物
- 歴史的建築様式を今に伝える町家

オ. 旧東海道沿道地区

- 旧膳所城下町や旧東海道沿道の歴史的まちなみを構成する主要な景観要素となる建造物
- 歴史的建築様式を今に伝える町家
- 旧膳所城下町に残る土塀

カ. 瀬田地区

- 旧東海道沿道の歴史的まちなみを構成する主要な景観要素となる建造物

⑧ 湖岸軸

(市街地水辺景観区、集落水辺景観区、砂浜樹林景観区、山岳水辺景観区、ヨシ原樹林景観区、河畔林景観区、水辺景観特別地区を含む)

- 湖岸に古くから発達した集落などにおいて歴史的まちなみの主要な景観要素となる建造物